

課題と強み

本市に関する既存データや、今年度実施した各種調査（本市の現況調査、市民アンケート、グループインタビュー等）を踏まえ、総合計画の基本構想を策定するにあたっての基礎情報となる本市の有する課題と強みについて検討します。

1. 主なポイント・課題

位置・地勢

- 江戸時代より中山道の宿場町として栄え、中央自動車道、国道19号JR中央本線が本市を東西に貫いており、広域的なアクセスに恵まれている。
- 恵那市の次に通勤通学の多い周辺市町村は、特急電車でも自動車でも1時間程度の名古屋市である。

歴史・沿革

- 昭和27年4月に市制が施行されて以来、多くの合併が行われ、平成17年2月に現在の中津川市が誕生した。13地区に分かれている。
- 古くは東山道、飛騨街道など交通の要所として栄え、中山道の宿場町として馬籠宿、落合宿、中津川宿の三宿があり、街道文化が栄えたまちである。

人口

- 人口減少の度合いが、全国平均、岐阜県平均よりも高く、人口減少への対応が課題となっている。
- 市内においては、市街地から離れた地区の人口減少が激しい傾向にある。
- 人口減少率が全国平均程度の地区は、中津地区、苗木地区、坂本地区の3地区であり、用途地域が指定されているエリアを含む地区が中心である。

市民アンケート（無作為抽出郵送配布1,500通、WEB回答、小中学生）

- 人口減少問題を強く意識している。
- 市内には多くの魅力があるものの、それを生かし切れていないと感じている。
- 若者は、地元への愛着や、居住や暮らしに関する満足度が、中高年と比較して低い傾向がある。
- 若者は、商業施設や遊ぶ場所が不足していることについての満足度が低い。
- 買い物、通勤通学、雇用において、市での生活に満足度が低い。
- 公共交通機関の整備と充実が強く求められている。
- 豊かな自然、治安の良さ、歴史・文化の豊かさが、市の強みとして認識されている。
- 地域医療の充実が重要視されている。
- 中高年にとっては、地域医療や高齢者福祉を充実させること、全体としては、出生数を増加させること、教育を充実させること、リニアを活かしたまちづくりが、優先して取り組むべき課題であると考えられている。
- 市内には13地区あるが、それぞれに地域性が色濃くある。
- 人のやさしさ、温かさ、親切さが、本市に住んでよかった理由の上位に位置している。

第2回中津川市総合計画審議会資料

今回の市民アンケート（無作為抽出郵送配布 1,500 通）の結果と現行の総合計画検討時に実施した市民アンケートの結果において、改善ニーズの高い政策課題の観点から比較すると、以下に示すように、どちらのアンケートにおいても、地域医療や社会保障関連が上位に挙げられています。

※今回の市民アンケート結果（令和6年）での改善ニーズの高い政策課題

- 地域医療の充実
- 居住環境の整備
- 社会保障の充実
- 道路、橋梁の整備・維持管理
- 雇用対策の充実
- 商業の振興
- 消費生活対策の充実

※現行総合計画検討時の市民アンケート結果（平成25年）での改善ニーズの高い政策課題

- 中津川市民病院の現状と充実
- 地域医療の現状と充実
- 少子化対策・子育て支援の現状と充実
- 行政借金残高の減少への取り組み
- 企業立地・雇用対策の現状と充実

グループインタビュー

- 市のイメージとしては、自然の豊かさに多く言及がある一方、行政運営が保守的である、計画的なまちづくりが行われていないといった意見がある。
- リニアによる市の発展を期待する意見も多い。
- 市の強みは、森林・清流などの自然資源や伝統芸能などの歴史・文化資源への意見が多い。また、市の特産物である栗、大規模な製造業の集積や、リニアの意見もみられる。
- 市の弱みは、行政運営に関して、新規分野への取組が停滞している、市が目指すビジョンが伝わっていないといった意見が多い。次いで、公共交通機関（バスやタクシーなど）への不満が多い。
- 満足する施策は、「18歳までの子供の医療費無料」が多く挙げられている。また、「生活応援商品券の発行」や、「リニアのまちづくり」に対する評価が多い。
- 不足する施策は、市が行っている取組自体への認知度が低い、PR不足という意見が多い。
- 必要な施策は、都市基盤に関する意見（都市計画の見直しや空き家対策）や子育て支援の強化に関する意見が多い。
- 不要な施策は、必要な施策と比べると意見は少ないが、リニアのまちづくりに関して精査が必要であるという意見がある。
- 2036年の将来像としては、「子育て」・「子供」と「自然」に言及するキーワードが多い。
- 自然災害が比較的少なく住みやすい。

庁内各課ヒアリング

- 関係各課による施策の実施状況について、75%程度が5段階評価の上から2番目の「施策が概ね順調に進捗し、ほぼ期待した成果を得た」という評価を行っており、全体的には、総合計画の施策の実施状況は「概ね順調」と言える。
- 上から5番目の「施策が進捗しておらず、成果はない」という最低評価は1つのみであった（斎場の場所確保に関すること）。
- 上から1番目と4番目の評価をされた施策は無かった。

2. 課題と強みの抽出と整理

今年度実施した各種調査（本市の現況調査、市民アンケート、グループインタビュー等）から得られた結果を踏まえ、主な課題や強みを抽出し、それらを分類して整理した表を以下に示します。

分野	課題	強み
子育て・教育	・人口減少の度合いが、全国平均、岐阜県平均よりも高く、人口減少への対応が課題となっている。 ・市内においては、市街地から離れた地区の人口減少が激しい傾向にある。 ・全体としては、出生数を増加させること、教育を充実させることが、優先して取り組むべき課題であると考えられている。 ・必要な施策として求められているのは、子育て支援の強化。	・人口減少率が全国平均程度の地区は、坂本地区、中津地区、苗木地区の3地区であり、用途地域が指定されているエリアを含む地区が中心である。 ・まちの将来イメージでは、「子育てのまち」のイメージが比較的強い。 ・「18歳までの子供の医療費無料」が満足度の高い施策である。
生涯学習・文化・スポーツ	・市内には多くの魅力があるものの、それを生かし切れていない。	・歴史・文化の豊かさが、市の強みとして認識されている。
健康・福祉	・地域医療の充実が重要視されている。 ・中高年にとっては、地域医療や高齢者福祉を充実させることが、優先して取り組むべき課題である。	・まちの将来イメージでは、「健康・福祉のまち」のイメージが比較的強い。
共生・協働・定住	・市内には13地区あるが、それぞれに地域性が色濃くある。	・人のやさしさ、温かさ、親切さが、本市に住んでよかった理由の上位に位置している。
防災・防犯	・防災・減災対策の充実は、重要な施策の上位に位置する。	・治安の良さが強みと認識されている。 ・自然災害の少なさが強みと認識されている。
環境	・市内には多くの魅力があるものの、それを生かし切れていない。 ・2036年の将来像としては、「自然」に言及するキーワードが多い。	・豊かな自然（森林、清流など）が市の強みと認識されている。
産業	・商業施設や遊ぶ場所が不足していると認識されており、若者に不満が多い。 ・リニアを活かしたまちづくりが、優先して取り組むべき課題と認識されている。	・林業は、市にとって誇り高い産業であると認識されている。 ・特産物である栗が市の強みであると認識されている。 ・大規模な製造業が集積している。

基盤整備	・ リニアによる市の発展が期待されており、期待に応じた基盤整備が求められている。 ・ 市の弱みは、公共交通機関（バスやタクシーなど）が脆弱であることであり、公共交通機関の整備と充実が強く求められている。 ・ 都市基盤整備（都市計画の見直しや空き家対策）が求められている。	・ リニア中央新幹線整備による市の発展へのポテンシャルが強みであると認識されている。
行政	・ 市のイメージとしては、行政運営が保守的である、計画的なまちづくりが行われていないといった意見が強くあり、これを払しょくする必要がある。 ・ 市の弱みは、行政運営に関して、新規分野への取組が停滞している、市が目指すビジョンが伝わっていないことである。 ・ 不足している施策は、市が行っている取組自体への認知度が低いことや PR 不足を解決する施策である。	・ 市民の満足している施策は、「生活応援商品券の発行」や、「リニアのまちづくり」である。 ・ 関係各課による施策の実施状況について、全体的には、総合計画の施策の実施状況は「概ね順調」である。